



我孫子市の主な我孫子遺産

## 資料編 我孫子市の主な我孫子遺産

## 市内神社・寺院

番号	地区	名称	新四国相馬霊場
1	我孫子	北星神社	
2		八坂神社	
3		香取神社	
4		鷲神社	
5		柴崎神社	
6		香取神社	
7	湖北	天照神社	
8		将門神社	
8		稲荷神社	
9		葺不合神社	第七十七番
10	布佐	浅間神社	第八十九番（番外）
11		竹内神社	
12		稲荷神社	第四十一番

番号	地区	名称	新四国相馬霊場	宗派	
1	我孫子	寶蔵寺	第八十四番	真言宗 豊山派	
2		東陽寺		真言宗 豊山派	
3		妙蓮寺		日蓮宗	
4		興陽寺	第五十九番	曹洞宗	
5		大光寺	第四十二番	真言宗 豊山派	
6		延寿院	第三十八番 第四十三番	真言宗 豊山派	
7		円福寺	第五十五番	真言宗 豊山派	
8		無量院	第六十五番	真言宗	
9		滝不動	第三十六番	曹洞宗	
10		最勝院	第二十七番	真言宗 豊山派	
11		東源寺	第七十五番	曹洞宗	
12		西音寺	第七十四番	真言宗 豊山派	
15		正泉寺	第七十三番	曹洞宗	
16		白泉寺	第二十二番	曹洞宗	
13		湖北	法照院	第二十八番	真言宗
14			照明院	第六十番	真言宗
17	法岩院		第五十一番	曹洞宗	
18	龍泉寺		第七十六番	真言宗 豊山派	
19	中里薬師堂				
20	観音寺		第二十九番	曹洞宗	
21	地藏堂		第二十五番	真言宗 豊山派	
22	長福寺		第八十一番		
23	弁財天		第七十七番		
24	布佐	延命寺	第二十四番	真言宗 豊山派	
25		勝蔵院	第二十一番 第三十七番	天台宗	
26		観音堂	第五十八番		

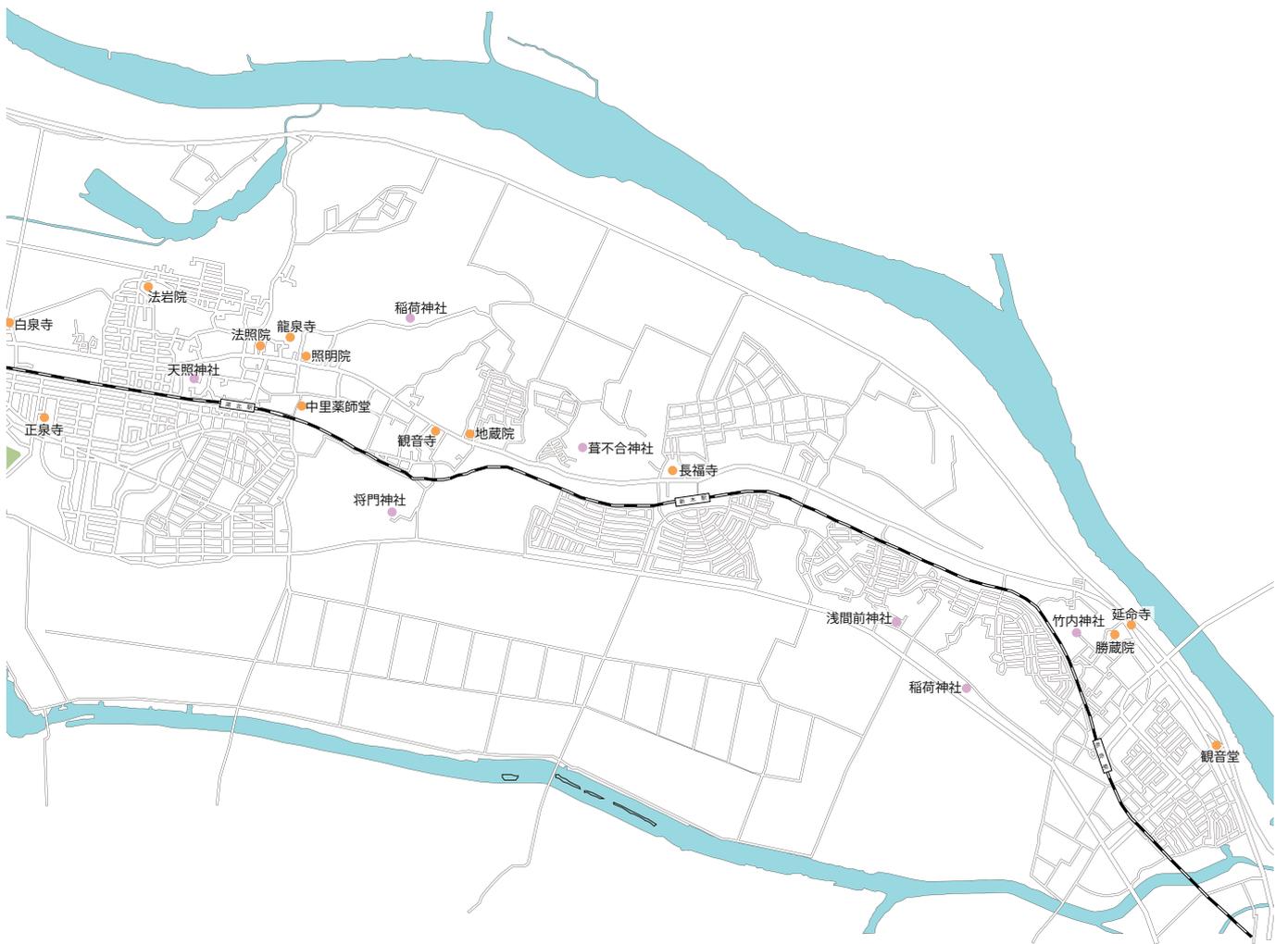
## 我孫子市内資料総点数

地区名	目録名	資料点数
我孫子地区	小熊勝夫家文書	1,138
	飯泉茂武家文書	310
	川村一夫家文書	2,190
	川村正信家文書	7,383
	染谷彦右衛門家文書	2,551
	飯田哲也家文書	258
	染井正家文書	64
	小熊郷右衛門家文書	25
	向保男家文書	390
	飯合保夫家文書	311
	向正衛家文書	51
	島根久直家文書	82
	高野山区有文書	242
	大塚二郎家文書	69
	河村貞喜家文書	699
	渡辺康一家文書	239
	杉村松子家資料	6,237
	石橋製糸資料	110
	飯泉家文書	32
	杉村武家資料	1,068
	中尾家資料	785
	渡辺家文書	95
	渡辺家文書	15
湖北地区	高田勝禧家文書	70
	田口是久家文書	560
	林義男家文書	183
	阿曾一郎家文書	534
	今井与兵衛家文書	44
	豊島家文書	709
	中峠下区青年団文書	93
	増田實家文書	調査中
	太子堂文書	35
	阿曾家文書	13
	中野家文書	46

地区名	目録名	資料点数
布佐地区	延命寺文書	382
	井上武家文書	2,861
	榎本武一家文書	3,375
	石井有家文書	103
	小山陸郎家文書	53
	石井質屋（ちよ）家文書	7
	布佐支所資料	46
	斎藤家文書	25
	井上家資料	18,083
	井上家文書	129
	合計	44件

## 市内神社・寺院の位置





## 我孫子市内の主な遺跡

	遺跡名	種別	遺跡概要
1	中谷遺跡	集落跡	縄文・古墳
2	上居村附西遺跡	集落跡	縄文・古墳
3	久寺家城跡	城館跡	中近世
4	金塚古墳	古墳	古墳
5	根戸城跡	城館跡	中近世
6	荒追遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
7	日立精機2号墳	古墳	古墳
8	船戸西遺跡	集落跡	古墳
9	根戸船戸遺跡	集落跡・古墳	縄文・古墳
10	遠坪遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
11	並木遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
12	子ノ神古墳群	古墳	古墳
13	並塚東遺跡	集落跡	縄文
14	高野山古墳群	古墳	古墳
15	後田南遺跡	旧石器	旧石器
16	西野場遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
17	香取神社古墳群	古墳	古墳
18	水神山古墳	古墳	古墳
19	前原古墳群	古墳	古墳
20	我孫子中学校校庭遺跡	集落跡	古墳
21	西大久保遺跡	集落跡	縄文・古墳
22	下ヶ戸貝塚	貝塚・集落跡	縄文
23	岡発戸古墳群	古墳	古墳
24	台畑遺跡	古墳	古墳
25	滝前遺跡	集落跡	縄文・古墳
26	鹿島前遺跡	集落跡	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安・中世
27	中峠北古墳群	古墳	古墳
28	芝原城跡	城館跡	中近世
29	中峠上古墳群	古墳	古墳
30	大久保遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
31	古戸貝塚	貝塚・集落跡	縄文・古墳
32	野守遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
33	南久保作遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
34	別当地遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安

	遺跡名	種別	遺跡概要
35	西原遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
36	日秀西遺跡	集落跡・郡衙跡	弥生・古墳・奈良・平安
37	南原遺跡	集落跡	奈良・平安
38	将門神社遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
39	チアミ遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
40	平市遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
41	君作遺跡	集落跡	奈良・平安
42	羽黒前遺跡	集落跡・城館跡	奈良・平安・中近世
43	新木東台遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
44	薬師前遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
45	北大作遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
46	余間戸遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
47	西大作遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安



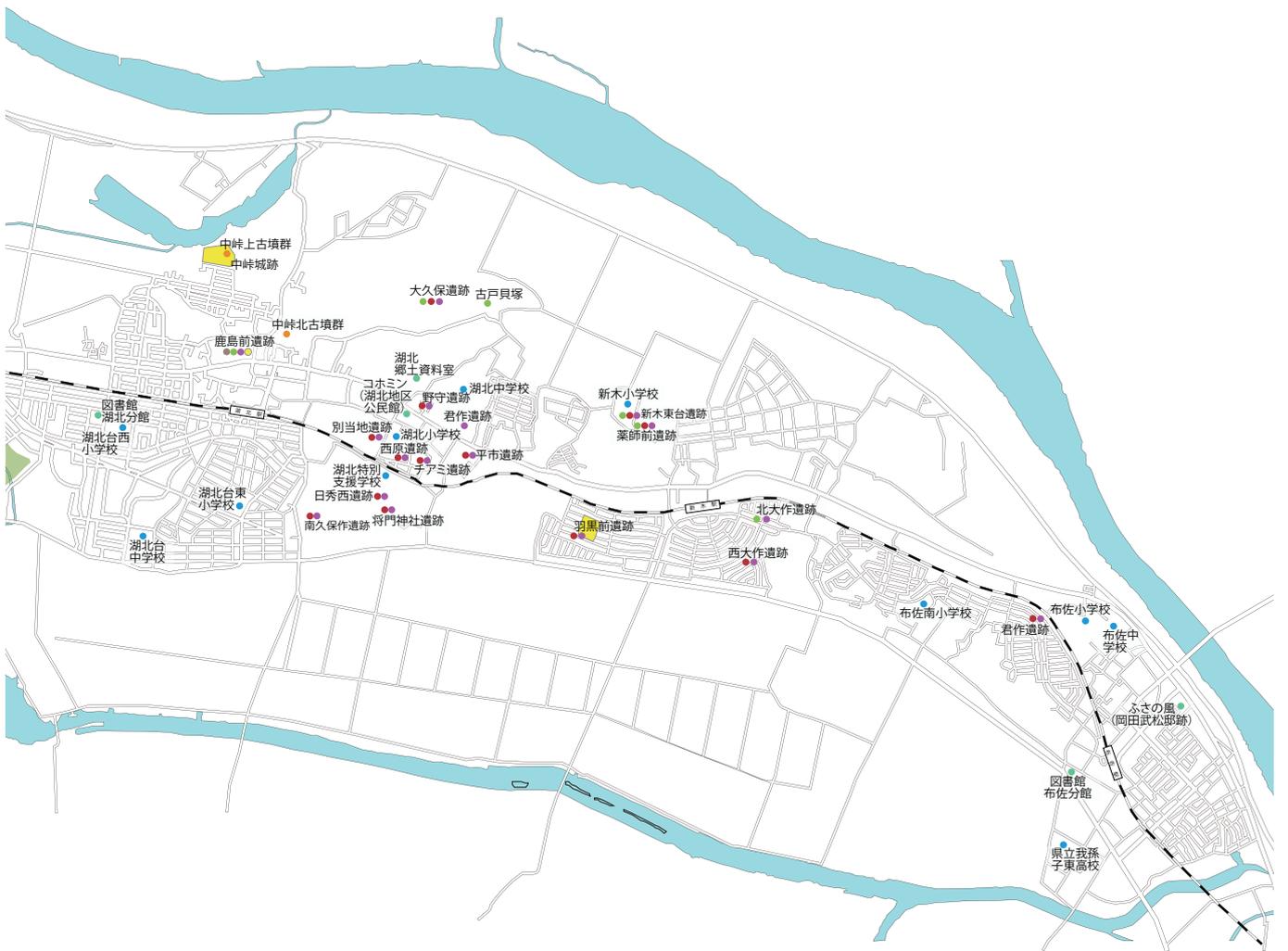
別当地遺跡 湖北小学校体験発掘



根戸船戸遺跡 1号墳石室

## 我孫子市内の遺跡の位置





## 古民家などの歴史的建造物

### 調査内容

我孫子市の登記簿をもとに市内にある建築物の調査を平成 21(2009)年に行った。結果、築年数が 100 年以上の建物を確認することができたが、その後、調査をもとに現地調査を行っていないため、建物の所在地を確認したので、現地確認を行うことが課題となっている。

	件数
築 75 年以上 100 年未満	70 件
築 100 年以上	19 件
合計調査件数	89 件

※平成 21 年調査時の建築年代



旧杉村楚人冠邸（大正 13 年）



旧村川別荘（昭和 2 年）



旧井上家住宅（万延元年）



志賀直哉書斎（大正 10 年）

## 主な金石文

地区名	我孫子	湖北	布佐
庚申塔	八幡神社（青山） 香取神社（高野山） 香取神社（高野山）：百庚申、101基 円福寺（柴崎）：日蓮系 千勝神社（高野山）：猿田彦 八幡神社（岡発戸）：百庚申、10基、滅失 大光寺（緑）：百庚申、数基残存	天神社（古戸）：猿田彦、4基 上新木地蔵堂：猿田彦 中里一番地先：猿田彦	水神社（布佐）：猿田彦
月待塔	八幡神社（青山）：二十三夜 正泉寺（都部）：三ヶ月、十七夜 水神社（根戸新田）：十三夜、二十三夜、一石 東源寺（柴崎）：十九夜 最勝院（高野山）：十九夜、2基 宝蔵寺（久寺家）：十九夜 香取神社（緑）：二十六夜	上新木地蔵堂：十六夜 法岩院（中峠）：十六夜 旧長福寺（新木）：十五夜 長福寺（新木）：二十六夜 中里薬師堂：十九夜 上新木バス停付近：二十三夜 諏訪神社（中里）：二十三夜 法照院（中峠）：二十六夜 中峠村不動尊：二十六夜、2基 観音寺（日秀）：二十六夜 葺不合神社（新木）：二十六夜 中峠不動尊：二十六夜	
巡礼塔と念仏塔	円福寺（柴崎）：百堂塔 水神社（根戸新田）：巡礼塔 西音寺（下ヶ戸）：六部塔	中里薬師堂：百箇所塔 龍泉寺（中峠）：宝篋印塔 長福寺（新木）：五輪塔 法岩院（中峠）：六部塔 日秀四番地先：六部塔 太子堂（新木）：六部塔	延命寺（布佐）：釈迦塔 勝蔵院（布佐）：六字名号塔 延命寺（布佐）：総州六阿弥陀二番
地蔵	観音寺（日秀）：和讃地蔵 白泉寺（岡発戸）：石造舟形地蔵像	上新木地蔵堂：千体地蔵（1,227体）	
道標・一里塚碑	下ヶ戸の一里塚碑 寿一の子之神道標 寿二の水戸・成田街道追分道標 最勝院先（高野山）：燈台付道標 弁天下（根戸）道標（布施弁財天） 弁天下（根戸）灯籠（布施弁財天） 八幡神社（岡発戸）道標 滝不動先（岡発戸）道標	湖北道路原標（個人宅） 中峠の一里塚碑 稻荷神社（古戸）道標	布佐の一里塚碑

地区名	我孫子	湖北	布佐
戦争関連	無量院前墓地（青山）：岩内家墓碑（西南戦争） 八幡神社（下ヶ戸）：石碑（日清戦争） 柴崎神社（柴崎）：灯籠（日清戦争戦勝記念） 柴崎神社（柴崎）：日露戦役黒髪塚 香取神社（緑）：日露戦役戦捷記念碑 大光寺（緑）：島根繁蔵碑（第一次世界大戦） 滝前八幡（岡発戸）：大正十年出兵記念碑：（第一次世界大戦） 宝蔵寺（久寺家）：志那事変戦死者記念碑 興陽寺（白山）：渡辺長一碑（第二次世界大戦）	長光院（中峠）：長澤房太郎碑（日清戦争） 旧湖北小学校跡地（中里）：今次大戦戦没者記念碑（日清戦争） 旧湖北小学校跡地（中里）：日露戦役記念碑 香取神社（新木）：御即位記念碑（第一次世界大戦）	布佐：斎藤重男碑（第二次世界大戦）
鉄道・産業	我孫子駅停車場道碑 香取神社（緑）：県道之桜樹植付寄付金記念碑 我孫子駅東口交番裏：庚申塔（鉄道庚申）	暮不合神社（新木）：蚕影山神社石祠 足尾神社（中峠）：蚕影山神社石祠	相島新田（布佐）：開発済世碑
人物碑	我孫子新田：血脇守之助碑 我孫子新田：バーナード・リーチ碑 楚人冠公園（緑）：楚人冠碑		勝蔵院（布佐）：松岡操夫妻墓碑 勝蔵院（布佐）：松岡鼎墓碑 布佐共同墓地：岡田武松墓碑
墓碑	正泉寺（都部）の手賀原氏墓碑（宝篋印塔、三基）		勝蔵院墓地（布佐）：和田氏墓碑 布佐共同墓地：ハリストス教徒墓石
教育関連	興陽寺（白山）：筆子塔 大光寺（緑）：筆子塔 大光寺（緑）：杉山先生碑 薬師堂（岡発戸）：英泰輔碑 北の堂墓地（柴崎）：大井家墓	法岩院（中峠）：筆子塔 観音寺（日秀）：筆子塔 長光院（中峠）：筆子塔（2基） 長光院（中峠）：飯田先生碑 湖北小学校（中里）：手賀沼殉難碑	

地区名	我孫子	湖北	布佐
山岳信仰	北星神社（根戸）：筑波山両宮 柴崎神社（柴崎）：三峰神社石祠 八幡神社（岡発戸）：三峰神社石祠 八幡神社（下ヶ戸）：三峰神社石祠 八坂神社（都部）：三峰山石祠 八坂神社（都部）：尾鑿山石祠 鷲神社（久寺家）：尾鑿加蘇山神社石祠	香取神社（新木）：三峰山石祠 将門神社（日秀）：無銘（三峰山カ）石祠 諏訪神社（中里新田）：三峰神社石祠 天照神社（中峠）：三峰神社石祠 天照神社（中峠）：加蘇山神社石祠 天照神社（中峠）：富士浅間大神璽石祠	竹内神社（布佐）：三峰山石祠 稻荷神社（布佐下）：無銘（三峰山カ）石祠 竹内神社（布佐）：御嶽神社再建記念碑 竹内神社（布佐）：御嶽山石碑 竹内神社（布佐）：霊神碑（御嶽山、五基）
その他	根戸：石塔婆（個人宅） 妙蓮寺（根戸）：青石塔婆 北星神社（根戸）：亀趺 水神社（都部新田）：石碑（魚漁） 大光寺（緑）：石灯籠（聖天紋） 大光寺（緑）：石碑（産褥忌服） 香取神社（緑）の石造明神鳥居 香取神社（高野山）：神社合祀碑 柴崎：榎の碑 白泉寺脇一ノ井（岡発戸）：神水改修碑	茸不合神社（新木）：神社合祀碑	和田幼稚園付近（布佐）：板石塔婆 勝蔵院裏手（布佐）：板石塔婆 観音堂入口（江蔵地）：河川改修馬頭観音塔 愛宕神社（布佐）：疱瘡神塔

## 我孫子の主な方言

種別	方言	意味
人に関する 言葉	アマッコ	女の子
	アマラ	女の子たち
	イシ	お前
	イシャ	お前
	イシラ	お前たち
	ウヌ	お前
	ウヌラ	お前たち
	オッカ	お母さん
	オッカア	お母さん
	カア	お母さん
	オド	お父さん
	オドウ	お父さん
	トウ	お父さん
	チャン	お父さん
	チャンコ	お父さん
	オラ	わたし
	オラア	わたし
	オジボウ	次男以下の男の子
	コメラ	子どもたち
	セナ	長男
	バア	おばあさん
	ババ	おばあさん
	バサマ	おばあさん
	バッチ	すえっ子
	ヤロ	男の子
	ヤロッコ	男の子
	ワゲエテラ	若い人たち
	ワゲシラ	若い人たち
	テッピラ	てのひら
	ハナメド	鼻の穴
	マナコ	目
	マナク	目
	マナグ	目
	マゴメ	まゆげ
	ヤンメ	はやり目
	スネッポロ	すね

種別	方言	意味
物や生物、 時間、位置、 方向などに 関する言葉	イタツパチ	板きれ
	オカン	成田街道
	オシ	みそ汁
	オツケ	みそ汁
	オゴワ	赤飯
	カシキ	食事の支度
	キビシヨ	きゅうず
	ケイドウ	街道
	ザッコ	雑魚
	シジメ	しじみ
	ゼニ	お金
	ゼネ	お金
	セド畑	裏の畑
	ソワラ	木の生えている傾斜地
	タランボ	つらら
	デーコン	大根
	デーコ	大根
	デイゴ	大根
	デイズ	だいず
	テネゲ	てぬぐい
	ネンジン	にんじん
	ノラ	田畑
	ハチンボ	はち
	メドッコ	穴
	ヤシ	たき火
	ユバ	ふる場
	ユウバ	ふる場
	ウシロバ	裏の方
	キニュー	きのう
	バンコ	順番
ハスッカ	ななめ	
レエネン	来年・明年	
アンベ	具合い	
コオコ	おしんこ	
シャッポ	帽子	
コウモリ	傘	

種別	方言	意味
人や物の動きなどを表す言葉	アッペヨ	あるでしょう
	アテンジャリする	あとずさりする
	アカルム	熟す
	インナイ	いらぬ
	インネエ	いらぬ
	イッテクンベエ	行ってこよう
	イッケエ	いますか
	ウッチャレ	すてる
	オッチャブス	おしつぶす
	オツブス	おしつぶす
	キモいれる	いらぬ
	クロ	ください
	クロヨ	くださいよ
	ケエレ	帰らなさい
	コワイ	つかれる
	コエー	つかれる
	コンチャレル	しかられる
	シンネエ	しらない
	シンナイ	しらない
	シャレ	どきなさい
	シミッタレル	出しおしみを
	ソウスベ	そうしよう
	ソエロ	仲間に入れる
	チャブス	つぶす
	ツンダセ	出しなさい
	ツス	通す
	ツッテッテヨ	連れて行ってよ
	ブッサレ	おんぶしなさい
	フンジャブス	ふみつぶす
	ヘガス	はがす
	ホコス	火をおこす
	ヤッペ	やろう、しよう
	ブンナゲル	なげる

種別	方言	意味
人や物の性質や状態などを示す言葉	アツタルもん	もたない
	イッペ	たくさん
	イカッペ	いいだろう
	イガッペ	いいだろう
	イガイ	大きい
	エガイ	大きい
	ウンダッペ	そうだ
	ウンダッペヨ	そうだよ
	ウス	うそ
	ウソッポ	うそ
	ウットセエ	うるさい
	エカイ	大きい
	カマネヨ	いいですよ
	キタイに	不思議に
	ゲモエネ	むだなこと
	シャアンメエ	しょうがない
	シャアンメイ	しかたがない
	シッカリ	たくさん
	ソウダベ	そうだろう
	ソウダッペ	そうでしょう
	ホダッペ	そうでしょう
	ソンドガニ	それから
	ソダモンカ	ちがう
	ダッペ	そうでしょう
	ダンベ	そうでしょう
	チョッコイ	小さい
	チャッケー	小さい
	シャワチャワする	はしゃぐ
	テンネエナイ	しょうがない
	トッペツモネエ	とっぴょうしもない
	ナデ	どうして
	ナシデ	どうして
	ヌクテー	暖かい
ヌクトイ	暖かい	
ヌガッペイ	ちくちくする	
ネエガッペ	ないでしょう	
ヘッコダメ	へこんでいる所	
ヤッコイ	やわらかい	
ヤメナシ	休みなし	
ハラクチ	おなかがいっぱい	

## 主な仏像・仏具等

	我孫子 地区	湖北 地区	布佐 地区	合計
<b>仏像等</b>				
仏像(如来)	1	1	0	2
仏像(菩薩)	3	3	1	7
仏像(明王、 天、その他)	4	2	0	6
梵鐘・半鐘	11	4	0	15
鰐口	10	8	5	23
磬子・鑿子	22	7	3	32
金剛版	1	2	1	4
香炉	1	2	3	6
燈台	5	2	3	10
華鬘	1		1	2
柄鏡	9	10	5	25
机	5	0	0	5
幡	1	0	0	1
水引	1	0	0	1
曲糸	1	0	0	1
箱	2	1	0	3
位牌	15	2	0	17
版木	61	1	7	69
対聯	1		0	1
金精木	0	1	1	2
<b>神道具類</b>				
箱	1	4	1	6
幣束	1	1	1	3
三方	2			2
織	4	2		6
神輿			1	1
祭礼具		1		1
木刀	1			1
鏡	1			1
鳥居	5	1		6
<b>絵画</b>				
仏画	10	1	1	12
神像画		1		1
絵馬	10	17	9	36

	我孫子 地区	湖北 地区	布佐 地区	合計
<b>扁額等</b>				
木額	68	43	31	142
木札	11	5	2	18
立札	1	1		2
棟札	11	1	5	17
格天井	0	1	1	2
<b>その他</b>				
太鼓	14	2	2	18
賽箱	3		1	4
賽銭箱	12	6	5	23
勅語箱	0	0	1	1
幔幕	4	1	4	9
<b>合計</b>	<b>314</b>	<b>134</b>	<b>95</b>	<b>544</b>

## 我孫子市の主な昔話

地区	伝説		世間話	
我孫子	子の神様と柊、中相馬の七ツ井戸、藤姫の入水、僧の祈祷した井戸、土瓶ガ池、柴崎様、頸天神、妙見様の由来	8	早足の運平、大力の勘七、殺された徳川残党の墓、大鰻の祟り、手賀沼の主、魔よけ小坊主	6
湖北	巖島神社の二股竹、旗立て松、中相馬の七ツ井戸、将門の井戸、担い塚、七ツ塚・十三塚、順道塚	7	首を祀った八幡社、偽汽車	2
布佐	竹内神社の由来、頼朝の松、権五郎井戸、龍崖城と三本足稲荷、天草長者	5	河童退治、狐の嫁入り	2

## 我孫子市内にあった講

講	開催が確認された地区
待道講	上新木、日秀、古戸、中里、中峠、根古屋、都部、岡発戸、高野山、青山、柴崎、久寺家、我孫子、根戸、岡発戸新田
明神講	新木
月待講	根戸新田（十三夜）、新木（十五夜）、上新木、中峠（十六夜）、都部（十七夜）、柴崎、久寺家（十九夜）、青山、上新木、中里（二十三夜）、我孫子、新木、中峠、日秀新木（二十六夜）、都部（三ヶ月）
三峰信仰	柴崎、岡発戸、都部、新木、日秀、中峠、布佐
富士講	中峠
伊勢講	我孫子宿、古戸
御嶽講	布佐
尾鑿山講 (加蘇山講)	都部、久寺家、中峠
子安講	
観音講	久寺家
念仏講	久寺家
大山講	
子ノ神講	
水神信仰	
テントウ講	湖北地区
大杉様	布佐下、布佐台、久寺家
天神講	

※待道講（岡発戸、我孫子、古戸）、明神講については、継続中

## 我孫子市の主な年中行事

月	日	行事
1月	元日	若水汲み
	3ケ日	男性か女性のみ台所仕事を行う（地域による）
	7日	七草
	11日	イチクワ
	14日	アワントリ
		オビシャ
2月	3日	節分
	8日	籠起
3月	3日	節句
	お彼岸	春分の日 3月20日を中日として前後3日合わせて7日間
4月		大師詣
5月	5日	節句
	下旬	百万遍
6月		ソーリ
		田植
		サナブリ
		テヤスメ
7月		送りの行事、種まき後念仏講中の人達が苗床を歩いた
	7日	七夕
8月	1日	カマブタツイタチ
	7日	マコモでガラガラ（腰掛）を作る
	13日	仏迎え
	14日	墓参り
	15日	仏はタカノノセガキへ行く
	16日	晩送り盆
	23日	寺でセガキ
9月		月見
	お彼岸	秋分の日 9月22日を中日として前後3日合わせて7日間
10月		稲刈り後、カツキリボタモチをつき、神・仏に供える
11月	中旬	オカマダンゴを作る
12月	4日	ダイシの粥を作る（根戸）
	14日	ダイシの粥を作る（根戸）
	24日	ダイシの粥を作る（根戸）
	20日	エベスコーの日（布施）

## 手賀沼にかかわる歌人・俳人

## 1. 地元出身及び手賀沼周辺に居住した歌人・俳人

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	我孫子在住期間	作品	備考
1	杉村楚人冠 1872～ 1945	和歌山 県	廣太郎	明治 45(1912)年 我孫子に別荘地 購入 大正 13(1924)年 ～我孫子へ移住	<ul style="list-style-type: none"> <li>なれとわれと幾たびかくてあることぞ恋ならば恋と明らかにいへ</li> <li>筑波見ゆ冬晴の洪いなる空に</li> </ul>	新聞記者 湖畔吟社
2	鈴木幸一 1910～ 1984	房総		昭和 33(1958) 年～	<ul style="list-style-type: none"> <li>手賀沼に浮く鴨のむれとほく見て妻と立つ丘の上の斎社に</li> <li>手賀橋に来たりて冬のあたたかき光を浴びる妻に添はれて</li> <li>あたたかき冬の夜ごろを来て立つに沼にやさしき鳩の声する</li> <li>橋桁の成しまま工事の進まざる沼平にて夕茜する</li> <li>かつしかや手賀の大沼に雪ふりて鳩のなくきけば君ぞ恋しき</li> </ul>	
3	中勘助 1885～ 1965	東京都		大正 13(1924)年 ～約 2 年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつしかのあびこの岡のぼっぼどりぼっぼと鳴けばわれはさびしも</li> </ul>	小説家
4	江口章子 1888～ 1946	大分県			<ul style="list-style-type: none"> <li>手賀沼の水ほとりをさまよひつ芦刈る音をわがものとせし</li> <li>生きてさえぬればよいのじゃ赤蜻蛉</li> </ul>	
5	小熊甚左 1907～ 1993	我孫子	勝夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>郵便夫船待つて居る日永かな</li> <li>月の人動かず吾も月の人</li> <li>畦を切り落せば落つる秋の水</li> <li>主なきサロンに秋の雨を聞く</li> <li>門に立ちて見送る人や百合の雨</li> </ul>	郵便局長 湖畔吟社
6	小熊一人 1928～ 1988	我孫子			<ul style="list-style-type: none"> <li>勾玉の月沼空に神楽笛</li> <li>寒雀とび下りほこり立つ日かな</li> </ul>	気象庁 勤務 湖畔吟社
7	河村蜻山 1890～ 1967	京都府		昭和 13(1938)年 ～同 29(1954)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>松に吹く風はまこもをなびかしむ</li> <li>此処に移り陶心深し柿熟れて</li> <li>沼波にまたかくれたる鳩の群</li> </ul>	陶芸家
8	原田京平 1895～ 1936	静岡県		大正 10(1921)年 ～昭和 3 (1928)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>雲母なす朝霧こめて手賀沼は眠れるままに船渡すかも</li> <li>暮れ近み大師めぐりは声高に村の事どもかたりつゝゆく</li> <li>葛飾の春は深みて沼の葦ゆたかにのびてよしきりの鳴く</li> </ul>	画家・歌人
9	坂巻純子 1936～ 1996	東葛飾 郡		昭和 53(1978)年 白山移住	<ul style="list-style-type: none"> <li>更衣鶴の一羽のしのびあし</li> <li>また水の景色に座る初暦</li> <li>棧橋の下の巣ごもり秘中の秘</li> </ul>	

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	我孫子在住期間	作品	備考
10	瀧井孝作 1894～ 1984	岐阜県		大正 11(1922)年 ～同 12(1923)年	・摘みとりて摘みすてがたき嫁菜 かな ・手賀沼の一と冬過ぎぬ芦の角 ・浮寝鳥沼に向かふ低い丘うねり ・渡し番葎垣新たかいつぶり ・沼の鳩はかないをなご呼べどこ ず	小説家
11	深川正一郎 1902～ 1987	愛媛県		昭和 20(1945)年 ～同 32(1957)年	・好もしく低き籬や鳥渡る ・田舟にも定紋打てり蝌蚪の水 ・藪裏に村の日のある椿かな	俳人 ホトトギス
12	秋元酒汀 1869～ 1945	流山	幼名 半之助	30歳位の時	・枯芦や日に日に風の騒がしき	味醂を商う豪 商
13	秋元双樹 1757～ 1812	流山	5代目 三左衛 門		・朝飯も焚かぬうちから閑古鳥	味醂醸造元(小 林一茶のパ トロン)
14	吉植庄亮 1884～ 1958	印旛郡		1924(大正 13)5 月白井村にて	・茶緑の松の花粉に汚れたる	衆議院 議員 農民歌人

## 2. 手賀沼周辺を吟行した歌人

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	吟行年月	作品	備考
1	井上通泰 1867～ 1941	兵庫県			・利根川にちかづきぬらしゆくか たの松原ごしにしら帆みえけり	医学博士 御歌所寄人 宮内庁編集部 委員 柳田國男の兄
2	折口春洋 1907～ 1945	石川県		昭和 7(1932)年	・丘陵の挟の水田のあかるさや 早苗はすべて植ゑつくしたり	国文学者 折口信夫の養子
3	香取秀真 1874～ 1954	印旛郡	秀治郎		・下総の手賀沼にとりし川鳥の ながといふ鳥ぞきこし召しをせ	美術学校教授
4	河合曾良 1649～ 1710	長野県		元禄の頃	・人とはばいかにこたえむ夜をこ めて越ゆるあびこの里も見わか ず	芭蕉に師事
5	窪田空穂 1877～ 1967	長野県	道治	大正 15(1926)年	・古塚のまるきが並ぶ人生きて親 しみにけむ沼見ゆる丘に ・松林行く行く見ゆる古き塚いに しへ人は土に籠れる	早大教授 芸術院会員

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	我孫子在住期間	作品	備考
6	斎藤茂吉 1882～ 1953	山形県		昭和8(1933)年 3月 (利根川周辺を 散策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>春の雲かたよりゆきし昼つかたとほき真菰に雁しづまりぬ</li> <li>むらがりて落ちかかりたるかりがねは柴崎沼のむこうになりつ</li> <li>あまのはら見る見るうちにかりがねの一つら低くなり行きにけり</li> </ul>	精神科医 歌人
7	四賀光子 1885～ 1976	長野県		大正9(1920)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠く来て一日は暮れぬ手賀沼のさびしきうみの水をわが見つ</li> <li>うれしげに首ふりてゆく馬のあり田中のみちのこの朝晴に</li> <li>生ひいでゝ丈まだ低き若蘆につきてあふるゝ沼尻の水</li> </ul>	昭和32年～ 40年まで宮 中歌会始選者
8	下村海南 1875～ 1957	和歌山 県	宏	大正14(1925) 年楚人冠を訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬枯れの雑木林の丘と丘せまれるなかにのこされし湖</li> <li>風をなみ冬の日樹の間を射りとほり子の神の宮はしづもりゐます</li> <li>うなぎ釣る船ただ一つ見えたりしがいつしかにまた見えなくなりけり</li> <li>友も我もゐろりかこみて公魚を語らひながら焼くべかりけり</li> </ul>	官僚・新聞人
9	釈迢空 1887～ 1953	大阪府	折口信 夫	明治41(1911)年 ～大正4(1915) 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>野は昼のさえしづまりに、雑木山あらはに赤き肌見せてゐる</li> <li>道のうへ小高き岡に男ゐて、なにかもの言ふ。囊ふる夕べ</li> <li>心ふとものにたゆたひ、耳こらす椿の下の暗き水おと</li> <li>囊ふる雑木なかに、鍬うてるいとゞ女夫の歌のかそけき</li> </ul>	国文学者 歌人
10	高田與清 1783～ 1847			文化14(1817)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>つきなせし手賀沼づつみつつむともいさを高田の名やはかくるる</li> </ul>	
11	高田浪吉 1898～ 1962	東京都		昭和31(1928)年 土屋文明、辻村直とともに	<ul style="list-style-type: none"> <li>くもりたる手賀沼めぐりもの寂し天つ空には近き山見ず</li> <li>すくひとる沼の水藻は金魚藻と君は言ひつつ水滴るを</li> <li>水みれば泳ぐ心の湧き来もよ水の蒼きを恋しくなりぬ</li> </ul>	歌人 アララギ
12	伊達重村 1742～ 1796			安永8(1779)年 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>五月雨のをやみしひまもうちくもりさだかに見えぬ遠の村里</li> </ul>	仙台藩主
13	田山花袋 1872～ 1930	群馬県	録弥	明治20年代	<ul style="list-style-type: none"> <li>利根川をのぼる帆の影夕日影静かに妹と一日ゐりにけり</li> </ul>	小説家

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	我孫子在住期間	作品	備考
14	辻村直 1893～ 1962	東京都		昭和3(1928)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>葦切の声は真近し里のひと 手賀の沼田に田螺拾いをり</li> <li>人を訪ね帰るさわれら三人して 船うけ遊ぶ千葉の手賀沼</li> <li>風波もたたず静けき沼の夕づく頃は魚はね上がる</li> <li>われが乗る船かたむけり この沼に生ふる金魚藻とりて帰らむ</li> </ul>	職人 歌人 アララギ
15	土屋文明 1890～ 1990	群馬県		昭和3(1928)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>安孫子の古き沼より採りて来し藻草に蛭の子が生まれたり</li> </ul>	国文学者 歌人 アララギ
16	徳川齊昭 1800～ 1860			天保14(1843)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>さしてゆくさほのとりでのわたしもり思ふ方にはとくにつきけり</li> </ul>	水戸藩9代藩主 江戸からの下向途中
17	長塚節 1879～ 1915	茨城県		明治35(1902)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>利根川を打ち越え来れば鳥綱はる湖北村に鶯鳴くも</li> </ul>	歌人・小説家 友人寺田憲訪問時
18	前田透 1914～ 1984	東京都			<ul style="list-style-type: none"> <li>沼の水かぐろき彼方曇り居て 林を分けつ白き坂見ゆ</li> <li>秋の日があたためている沼をこえ林相は遠く近く色づく</li> <li>沼の午後水冷えている展望に来て佇つ吾等また黙しつつ</li> <li>秋の日が照りかげりせる林相を沼に日もはかなかるべし</li> <li>晩秋の午後を遊べる手賀沼の 枯葦の葉を子は持ちかえる</li> </ul>	歌人
19	柳田國男 1875～ 1962	兵庫県			<ul style="list-style-type: none"> <li>すすみ舟いつしかたえて葉桜のこぼるる岸に秋風ぞふく</li> </ul>	民俗学者
20	山口茂吉 1902～ 1958	兵庫県		昭和8(1933)年 ～同9(1934)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>この沼にあつまる雁は午前九時ごろすでに四五百となりて飛びたり</li> </ul>	斎藤茂吉に師事 アララギ
21	山下秀之助 1897～ 1974	鹿児島県		大正9(1920)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>島つきて松の葉の間に湖の 光つめたく暮れそめしかも</li> </ul>	医師
22	若山牧水 1885～ 1928	宮崎県	繁	大正14(1925)年 8月下旬 印西の知人を訪問時	<ul style="list-style-type: none"> <li>夕焼の名残は見えて三日の月ほのかなるかも沼の上の空に</li> <li>かるやかに音かきたててわけゆく真菰がなかの船のちいさき</li> <li>さかづきのいと小さきに似てもおれや 浮きて咲きたる水草の花</li> <li>はるけくてえわかざりけり沼の上や 近づき来る鶯にしありける</li> </ul>	歌人

## 3. 手賀沼周辺を吟行した俳人

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	吟行年月	作品	備考
1	阿波野青畝 1899～ 1992	奈良県		昭和18(1943)年 昭和36(1961)年	・手賀沼のよごれを鳴くや行々子 ・藁葦の権現やさし梅の花	馬酔木
2	石田波郷 1913～ 1969	愛媛県	哲大	昭和18(1943)年 昭和17(1942) 年1月か	・瑯玕や一月沼の横たはり ・九年母や我孫子も雪となりにけり ・雪の竹沼へ傾きはしめけり ・夜の雪となりゆく町や駅にいず ・水洩や我孫子の駅のたそがれて	馬酔木
3	大場白水郎 1890～ 1962	東京都	惣太郎		・ゆく雁や船傾けて鰻搔く ・どの船も鰻搔くなり春浅き ・鰻屋へ船漕ぎ戻す秋の暮	
4	大町桂月 1869～ 1925	高知県	芳衛		・足音に鮒うごきけり春の水 (手賀沼を詠んだものかどうか確認 できない)	詩人・評論家
5	岡野知十 1860～ 1932	北海道	敬胤	1922(大正11)	・騒がしきものゝ淋しさや行行子 ・槐折れて西日さしこむ夏ざしき ・風薫る新しき舟にパイプに	俳人
6	小川芋銭 1868～ 1938	東京都	茂吉		・鶯や畳の上に楸と餅	日本画家
7	加倉井秋を 1909～ 1988	茨城県	昭夫		・秋の沼戻りしばらく経てわれも	武蔵大学教授
8	加藤楸邨 1905～ 1993	東京都	健雄	昭和10(1935)年 同12(1937)年	・元日の沼のしずけさに来て触れぬ ・鳩あそぶ舟路はありぬ萱の中 ・翔てるもの鴉なり萱の鳴るさむさ ・笹鳴や畦は乾きて径となる ・寒き日がわたり萱鳴り萱鳴れり	俳人 国文学者 馬酔木
9	角川源義 1917～ 1975	富山県		昭和47(1972)年	・花つばき文人村の沼けぶる	歌人 国文学者 角川書店・ 角川文庫創 設者
10	金子兜太 1919～ 2018	埼玉県			・春の鳥ロボットが横たえられており	
11	川端茅舎 1897～ 1941	東京都	信一	大正7(1918)年 武者小路実篤を 訪ねて	・麦秋や古墳の如き瓦竈 ・ガタ馬車のペラペラ幌や麦の秋 ・青麦や丘てっぺんの桔槔	歌人 ホトトギス

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	吟行年月	作品	備考
12	小林一茶 1763～ 1827	信濃国	弥太郎	布川の月舟を訪 ねて	葬のはらはら星のきをひ哉	俳人
13	西東三鬼 1900～ 1962	岡山県	齊藤敬 直		・陸稲刈るにも赤き帯紺がすり ・いわし雲人はどこでも土平らす ・東西よりも道来て消えし沼の秋	歯科医
14	鈴木花蓑 1881～ 1942	愛知県	喜一郎		・手賀沼の見えて暗しや梅雨の宿 ・新米のこぼれてありし渡し舟	大審院書記 ホトトギス
15	高野素十 1893～ 1976	茨城県	與巳	昭和 5(1930)年 高浜虚子等と	・水尾ひいて離るる一つ浮寝島	医師 ホトトギス
16	高浜虚子 1874～ 1959	愛媛県	清	昭和 5(1930)年 手賀沼 昭和 12(1937)年 三樹荘	・船漕いで買足しに行く月の酒 ・舟漕いで亭主帰りぬ沼の秋 ・沼舟の棹高々と蘆がくれ ・藻の花や母娘が乗りし沼渡舟	ホトトギス を経営
17	高浜年尾 1900～ 1979	東京府		昭和 23(1948)年 昭和 39(1964)年 (我孫子ゴルフ 場にて)	・葭切の蘆の隔てし沼の景 ・まじりみて真菰の丈の蓮の花 ・かすかにも下萌ゆこそにクラブ振る ・春炉焚きコースの中の休憩所 ・ゴルフ野にはや雲雀聞く耳すます	高浜虚子の 息子 ホトトギス
18	富安風生 1885～ 1979	愛知県	謙次	昭和 5(1930)年	・古き沼立ち待つ月を上げにけり ・沼の月東京遠き思ひかな	通信省 ホトトギス
19	古田月船 1757～ 1837	茨城県			・うしろから朧月夜となりにけり	
20	星野立子 1903～ 1984	東京府		昭和 5(1930)年	・ちげれ浮くふさ藻の先も花咲きぬ ・秋水や繁るボートに憩ひおる ・蘆叢に舳を入れてふさ藻かな	虚子の娘 ホトトギス 初の女性主 宰誌『玉藻』 創刊
21	松尾芭蕉 1644～ 1694	伊賀国	宗房	貞享(1687)年 (布佐)	・清滝や波にちりこむ青松葉	
22	松本たかし 1906～ 1956	東京都	孝	昭和 10(1935)年	・麦笛を吹くや手賀沼筑波山	能役者(宝 生流)

No.	名前(号) 数字は生没年	出身地	本名	吟行年月	作品	備考
23	水原秋桜子 1892～ 1981	東京都	豊	昭和13(1938)年 ～同29(1954)年 この間三樹荘で 観月会 手賀沼吟行に50 回以上来我	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草籠に一人静も刈られたる</li> <li>・手賀沼の洲の残雪の暮れてひかる</li> <li>・早稲刈の去るやたちまち稲架も暮れ</li> <li>・冬の雁鳴きすぎ轆轤とどまらず</li> <li>・夜の雪の田をしろくしぬ鴨の声</li> <li>・落ち葉焚くけぶりにうすく沼ひかる</li> <li>・手賀沼に漬ゆる小田や牛鋤けり</li> <li>・麦青み鯉とるふねのゆき交へり</li> <li>・真菰枯れ芦枯れ沼辺黄なりけり</li> <li>・が蒔く麦の萌えぬ山畑に</li> <li>・手賀沼の澄む日をかさね石露咲きぬ</li> <li>・傍らに素焼きを干せば石露咲きぬ</li> </ul>	医師 ホトトギス →馬酔木
24	山口青邨 1892～ 1988	岩手県 盛岡	吉郎	昭和8(1933)年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蘆枯る&gt; 柏まで行く女舟</li> <li>・枯芦の一葉は軽し舟もまた</li> <li>・新米を二三俵積み舟を出す</li> <li>・竹立て&gt; を沈めたり冬日陰</li> <li>・手賀沼に棹しあそぶ冬ぬくし</li> </ul>	東京大学名 誉教授 ホトトギス



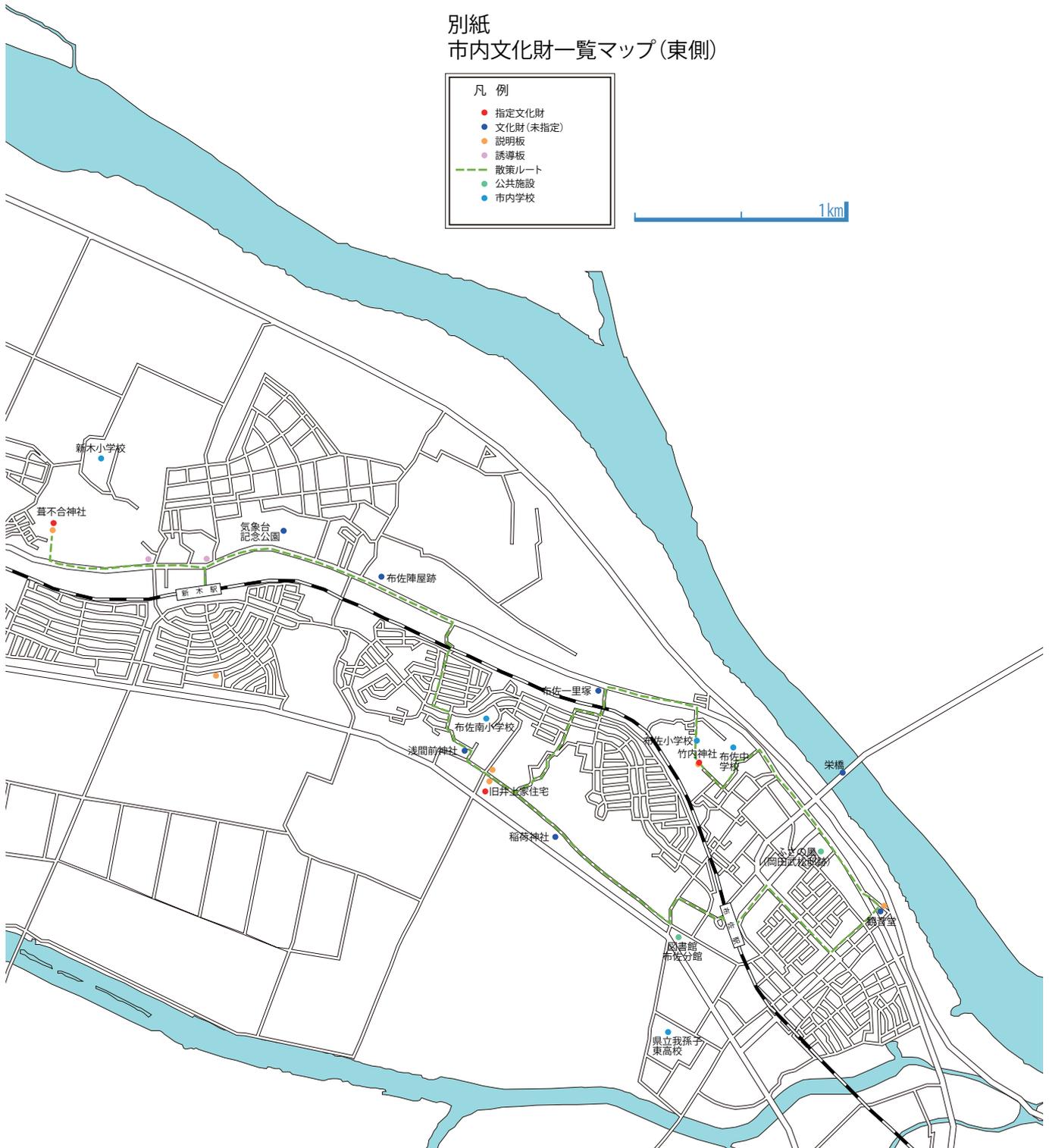




別紙  
市内文化財一覧マップ(東側)

- 凡 例
- 指定文化財
  - 文化財(未指定)
  - 説明板
  - 誘導板
  - 散策ルート
  - 公共施設
  - 市内学校

1km



## 【参考文献】

赤松宗旦『利根川図志』(安政4年)

織田完之『印旛沼経緯記』(明治26年8月 金原明善)

菅井敬之助『湖北村誌』(大正9年12月 湖北村役場)

千葉県東葛飾郡教育会編『東葛飾郡誌』(大正12年 千葉県東葛飾郡教育会)

千葉県教育委員会編『印旛沼・手賀沼周辺の民俗』(昭和45年3月 千葉県教育委員会)

我孫子市教育委員会市史編さん室編『我孫子市史研究』第4号

(昭和54年3月 我孫子市教育委員会)

千葉県文化財センター『我孫子市日秀西遺跡』(昭和55年 千葉県教育委員会)

「郷土あびこ」編集委員会『郷土あびこ』第4号 特集 我孫子の生業

(昭和57年11月 我孫子市史研究センター)

久保田鉄工株式会社編『アーバンクボタ』NO.19(昭和56年4月 久保田鉄工株式会社)

我孫子市金石文編集委員会編『我孫子市史資料』金石文篇Ⅲ

(昭和58年3月 我孫子市教育委員会)

我孫子市教育委員会市史編さん室編『我孫子市史研究』第9号

(昭和60年3月 我孫子市教育委員会)

我孫子市教育委員会『別当地・南久保作・北久保作遺跡』(昭和60年 我孫子市教育委員会)

我孫子市教育委員会市史編さん室編『我孫子市史研究』第12号

(昭和63年3月 我孫子市教育委員会)

長谷川一編著『あびこ版 水戸土浦道中絵図』(昭和63年3月 我孫子市教育委員会)

我孫子市史編さん委員会編『我孫子市史』民俗・文化財篇

(平成2年3月 我孫子市教育委員会)

「郷土あびこ」編集委員会編『THE アビコ 増補版 地名と姓 郷土史の遊びと研究』

(平成9年7月 我孫子市史研究センター)

千葉県立現代産業科学館編『千葉県の産業・交通遺跡』

(平成10年12月 千葉県教育委員会)

我孫子市教育委員会『別当地遺跡』(平成14年 我孫子市教育委員会)

我孫子市史研究センター合同部会『手賀沼干拓べりの道 今昔』

(平成15年3月 我孫子市史研究センター合同部会)

我孫子市教育委員会『野守遺跡』(平成15年 我孫子市教育委員会)

我孫子市史編さん委員会編『我孫子市史』近・現代篇(平成16年3月 我孫子市教育委員会)

千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)

(平成16年3月 千葉県)

千葉県教育委員会編『千葉県の近代和風建築』(平成16年3月 千葉県)

我孫子市史編さん委員会編『我孫子市史』原始・古代・中世篇

(平成17年3月 我孫子市教育委員会)

我孫子市史編さん委員会編『我孫子市史』近世篇(平成17年3月 我孫子市教育委員会)

我孫子市史研究センター合同部会『我孫子の石造物』(所在地別リスト)

(平成17年3月 我孫子市史研究センター合同部会)

品田制子「手賀沼に関わる歌人・俳人の資料」(平成18年12月)

我孫子市教育委員会『君作遺跡』(平成19年 我孫子市教育委員会)

我孫子市教育委員会『別当地遺跡』(平成21年 我孫子市教育委員会)

我孫子市教育委員会 第4回杉村楚人冠展『楚人冠と景観保護活動』  
(平成22年1月 我孫子市教育委員会)

記念誌発行委員会編 60周年記念誌『六十年の歩み』  
(平成26年3月 千葉県手賀沼土地改良区)

我孫子市教育委員会『君作遺跡』(平成29年 我孫子市教育委員会)

## 我孫子市文化財保存活用地域計画

---

令和2（2020）年12月 認定  
令和3（2021）年3月 発行

---

編集・発行／我孫子市教育委員会  
千葉県我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL 04-7185-1583

---